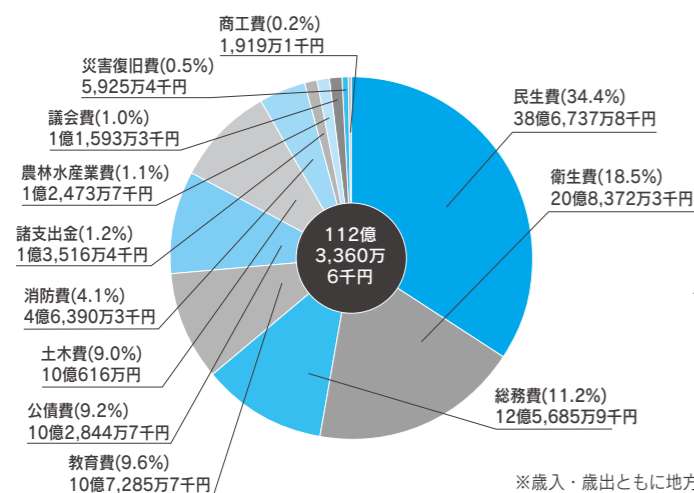


平成26年度 決算報告

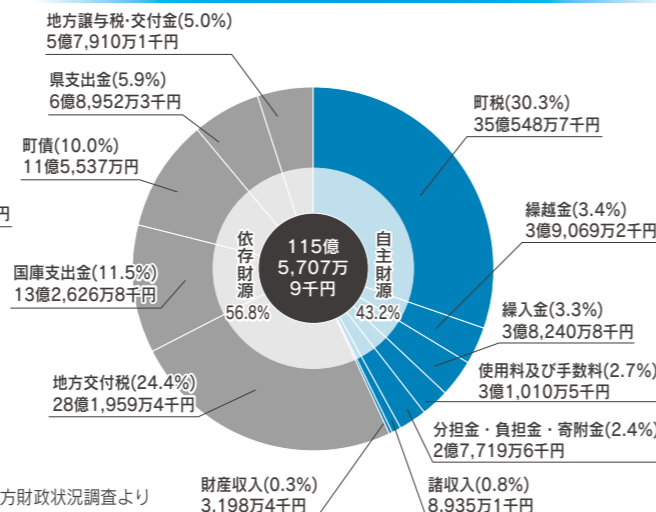
平成26年度の一般会計・特別会計(国保・後期・下水道)及び下水道事業会計の決算が、町議会9月定例会で認定されました。平成26年度も前年度に引き続いて、歳入においては最終処分場2期整備工事の実施に伴い国庫支出金や町債が増加し、歳出においても同工事の実施に伴う投資的経費の増などにより、歳入・歳出ともに前年度決算額を上回っています。一般会計の歳入歳出差引額は3億2,347万3千円で、翌年度へ繰り越すべき財源3,825万6千円を差し引いた**実質収支は、2億8,521万7千円の黒字**となりました。しかしながら、町の貯金に当たる一般会計の積立金残高は17億3,228万円で、平成21年度末以来5年ぶりに対前年度末から減少し、依然として低い水準が続いています。また、町の借金に当たる一般会計の町債残高は100億8,700万円で、平成22年度末以来4年ぶりに100億円の大台を突破しました。

問い合わせ 政策経営課 ☎934-2247

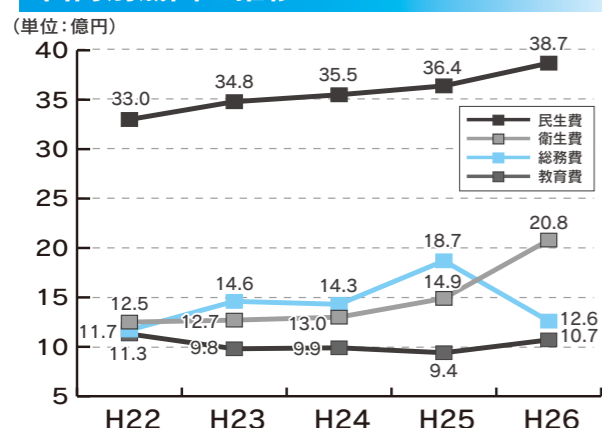
一般会計歳出の状況



一般会計歳入の状況

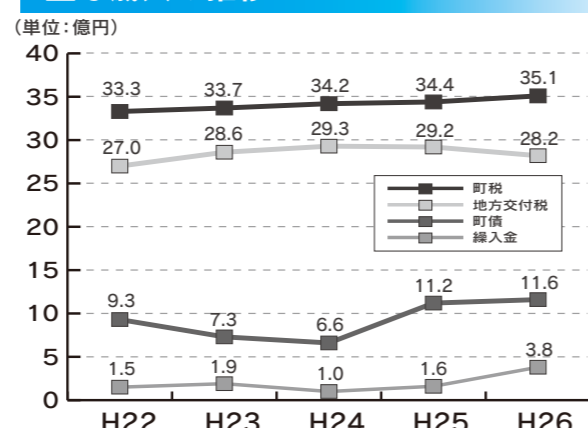


目的別歳出の推移



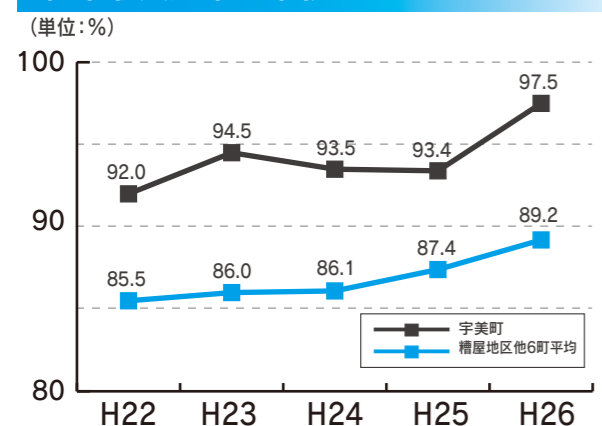
※千万円単位未満四捨五入
・H26に民生費が増となっているのは、臨時福祉給付金等給付事業費による増が主なものです。
・H25～H26に衛生費が増となっているのは、最終処分場2期整備事業による増が主なものです。

主な歳入の推移



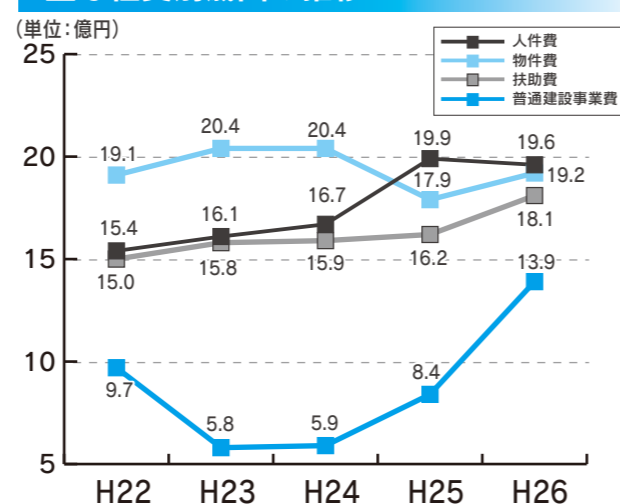
※千万円単位未満四捨五入
※主要財源の町税が4年連続で対前年度比増となった一方で、貯金取崩しに当たる繰入金が、H21以来5年ぶりに3億円を超えました。

経常収支比率の推移



※経常収支比率：経常経費に使われた一般財源の経常一般財源収入(毎年度連続して収入される用途が特定されない収入)に対する割合で、数値が低いほど弾力的な財政運営ができる団体といえます。
※昨年度まで2年連続で改善していましたが、H26は過去最悪であったH20の96.2を1.3ポイント上回る数値にまで上昇し、財政の硬直化が進んでいます。
※糟屋地区他6町(志免町・須恵町・粕屋町・篠栗町・久山町・新宮町)の平均は、単純平均です。(以下「健全化判断比率」においても同様)

主な性質別歳出の推移



※千万円単位未満四捨五入
※性質別歳出は、地方財政状況調査要領によります。

特別会計決算額

(特定の事業を行うために一般会計と区別して処理する会計です。)

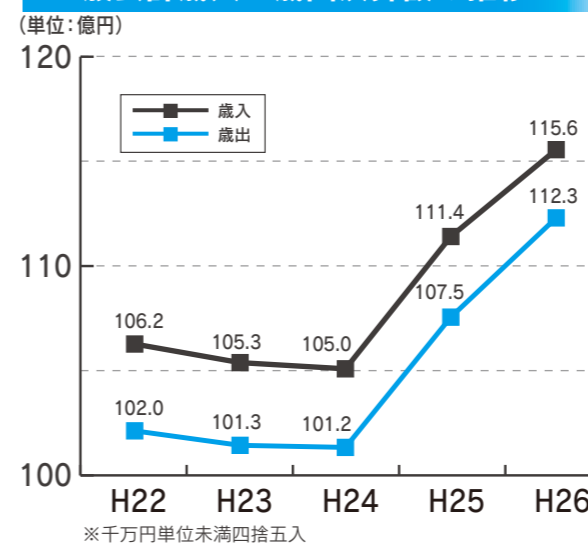
会計名(事業名)	歳入	歳出	歳入歳出差引額
国民健康保険特別会計	42億8,587万4千円	44億3,303万7千円	△1億4,716万3千円
後期高齢者医療特別会計	3億6,593万5千円	3億5,311万6千円	1,281万9千円
流域関連公共下水道事業特別会計	12億6,079万円	12億4,290万1千円	1,788万9千円

公営企業会計決算額

(自治体でも法律で収益が認められている公営企業の会計です。)

上水道事業会計	収益的収支(水道料金などでの収支)	
	収益的収入	6億6,484万4千円
	収益的支出	6億8,257万7千円
	収支差引	△1,773万3千円
上水道事業会計	資本的収支(施設建設などでの収支)	
	資本的収入	1,694万2千円
	資本的支出	2億5,430万2千円
	収支差引	△2億3,736万円

一般会計歳入・歳出決算額の推移



人口と町民1人当たり歳出決算額の推移

